



会員数 32人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 184

令和3年10月号

2021. 10. 19

皆さんの出番です！

皆さん、もちろん元気でしたよね。早く皆さんの顔を拝見しながら打倒コロナの話がしたかった… ご近所に特殊車両が来て防護服を着た隊員さんがベランダから室内に入り、ストレッチャーが中に入るのを目撃、20分後和やかに隊員さんがベランダから撤退するのを見て「よかった！」と胸が熱くなってしまいました。緊急事態宣言にふりまわされるも“お腹いっぱい”。



予防第一、食事にも気を付けて免疫力が低下しないように留意しながら「みんなが楽しくなる・元気になる活動開始」のときです。

植田佐世子

広報委員会 9月17日 7名出席

コロナ禍の現在、人は思うような活動が出来ない。しかし、不要不急ではない当委員会は開催され、熱の籠った充実した討議が行われた。

しかしながら、当委員会以外の委員会、同好会の開催は芳しくなく、ふれあい掲示板を埋める記事も少ないという状況が続いている。が、継続性を重視して10月号も2ページで発行することに決定した。

同時進行する会報「Link 22号」の発行については、編集委員会を立ち上げた。会長を委員長として新メンバーも加わった。続いて紙面構成案を検討して、総ページ数等を決定。随想集や作品等の提出を呼びかけ、11月例会の配布を目指して進めていくこととした。(内藤)

企画委員会 10月5日 5名参加

例会の中止で変更になった卓話講師とのスケジュール調整や、今後の卓話講師の候補者の検討などやショートスピーチ担当者への連絡、12月の意見交換会について協議しました。企画委員会の新体制は5名の新体制でスタートしましたが、プロバスケットボールクラブの充実を願う会員の参加を切に願うばかりです。(大石)

全日本プロバスケットボール協議会事務局報告

郵送による第9回総会 提案のとおり承認

8月4日に始まった郵送による全日本プロバスケットボール協議会第9回総会議案の賛否を問う投票が9月10日に締め切られ、議案は原案通り可決されました。その結果は、10月1日付発行の全日本協議会「ニュース」(No.7)に掲載、9月29日に開催した事務局会議で発送しました。(写真)



投票は48会員クラブを対象に行われ、回答した35クラブはいずれも「全議案を原案通り承認する」と返答。「ニュース」はその結果報告と、古賀靖子会長の挨拶、それに全国の会員クラブの紹介等を掲載しています。さらに、全日本協議会の活動を支援する賛助会員(会費 1万円)の募集も開始、賛同される北九州プロバスケットボールクラブの会員を募っていますので、ご協力をよろしくお願いたします。

事務局会議では他に、全日本協議会のホームページを10月1日に更新しました。パソコンをお持ちの方は一度、ホームページを開いてみませんか。(松本)

風の会

栗狩りで実りの秋体感



長引くコロナ禍であつたり、迷走台風に気を揉んだり、何かと閉塞感のある日々の連続中、

9月19日思い切って郊外に栗狩りに出かけました。

プロバス会員と友人あわせて15名程のグループで栗の毬から実を取り出したり、竹竿で叩き落としたりと奮闘絵巻。台風一過で晴天に恵まれましたが、「秋高し」の季語のようにはいかず、むしろ暑かった感あり。稲も微かに色づき、これからの実りの秋、めぐみの秋の中で、小さな収穫の秋の1日を楽しみました。

来年は、皆さんと中津にトランクいっぱい枝豆狩りに参りましょう。(この2年コロナで中止) お楽しみに! (近藤哲)

日本酒の会

美酒と竹崎蟹で食欲の秋満喫

高い青空に秋のうろこ雲が浮かび、絶好の好天に恵ま



れた9月26日、”佐賀肥前浜宿・酒蔵立ち寄りと祐徳稲荷神社”のバスツアーに参加。車窓には穂をたわわにした一面の稲畑でみていると、コロナ禍で萎れた気持ち解放感でいっぱいになりました。

先ず酒蔵の町、肥前浜宿の肥前屋では日本酒の会の本領発揮。酒蔵見学とお酒の試飲をし、いよいよメインの茶寮「海旬」で竹崎蟹をいただきます。蟹の甲羅に熱燗を注いだ甲羅酒も美味しかったです。

古賀さんのシャンソンを聴いて ♪

9月11日、古賀さん出演の恒例リラコンサート。この日は13名の淑女が夫々2度登場して美声を競った。主観だが、総じて落ち着いた曲が多く、歌い手は皆曲想の表現に心を込めているように感じられた。

古賀さんの歌は「そして今は」「愛の贈り物」の2曲。前者は、老境に至り独り身となったヒロインの、夜明け時のやるせない心境。抑制的ながら抒情性に裏打ちされた歌い方。また、後者は子から親、親から子への愛情表現(サービス)の質の違いをユーモラスに語ったもの。何れも面白く聴くことができた。

ラストは指導者タカコさんのベテランらしい2曲で締め括られた。尤も、今回は客席の空気が目立ち、中でプロバスの女性の姿が多く認められた。(竹原)



囲碁三昧

神田澄男会員



No54

私が囲碁を始めたきっかけは、大学時代、下宿にいた大学囲碁部の同期の友人からなんとなく教えてもらいました。卒業後弟たちと素人碁を楽しむようになった。その後組合の囲碁会に参加、55歳でリタイヤ。紺屋町から金田に転居し、当時の厚生年金会館に学園がありその囲碁講座に入会、日本棋院小倉支部に出入りするようになりました。大会や年1回の1泊旅行の囲碁会、中国へも二度の囲碁旅行をしました。仲間も随分増えた。プロバスにも囲碁クラブが出来た。当時幹事長だった同級生の吉森君とも、お互いの家に行き来して楽しんでいましたが、六年前に他界し、淋しい。現在は週1回の金曜囲碁会の世話をしている。月水木は社交ダンスに健康のため通っている。火曜日はプロバス関係、土日は友人と自宅で囲碁を楽しむおかげで、充実した毎日を送っている。感謝。

- ・碁がたきは妻より大事なパートナー
- ・極楽とんぼを影で支える妻に感謝

すっかり蟹料理を堪能し、その後は道の駅鹿島に寄り、祐徳稲荷神社に参拝して、無事楽しい一日を過ごしました。

もちろんバスも「海旬」も私たちもコロナ対策は万全でした。(柴村)